

## 令和5年度以降の業務の進捗管理方法について

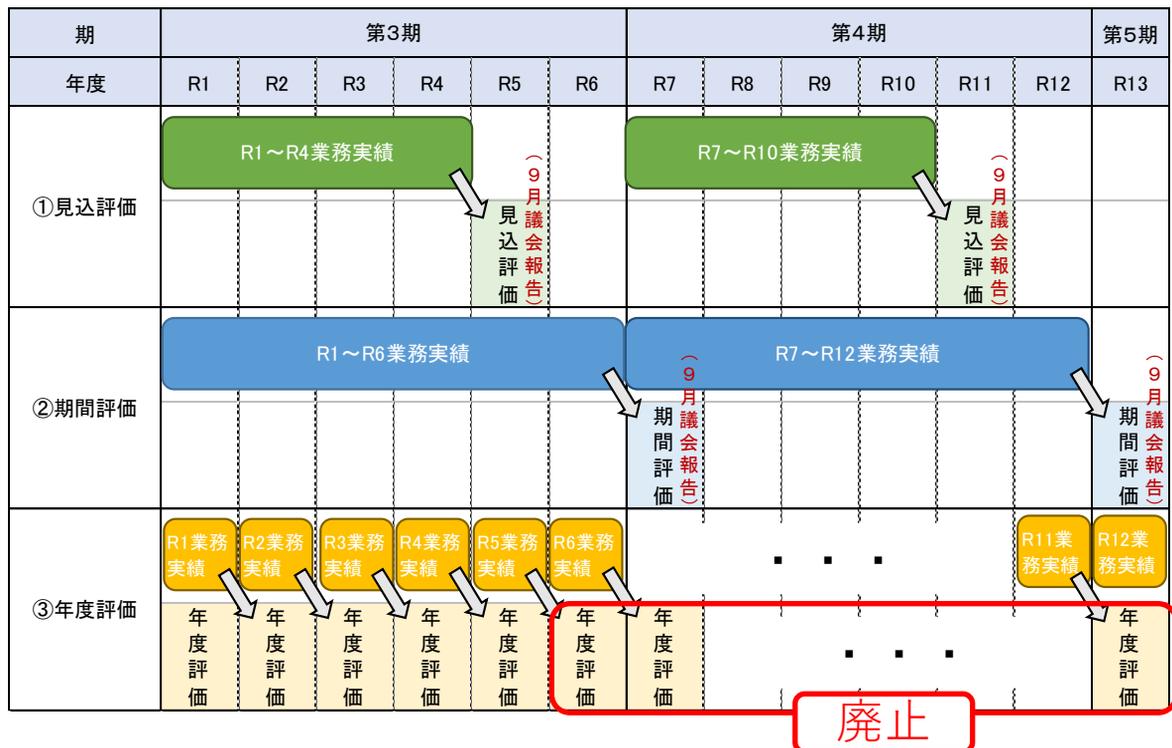
医大の事務軽減及び本来業務への専心を目的に、法改正により旧地方独立行政法人法で毎年度義務付けられていた、医大における年度計画の作成及び評価委員会による年度評価が廃止になりました。（令和5年6月16日施行）

そのため、令和6年度の年度計画作成及び令和6年度の年度評価（令和5年度分評価）から実施不要となりますが、中期目標達成に向けた医大の取組状況を把握するため、【対応案】のとおりとしたいと考えています。

また、今後は見込評価及び期間評価を実施することになります。

（参考）評価委員会による評価（旧地独法第78条の2）

- ①見込評価（中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価）
- ②期間評価（中期目標期間における業務実績に関する評価）
- ③年度評価（各事業年度における業務実績に関する評価）…廃止



年度評価廃止に伴い、各年度の医大の取組状況把握ができない。

### 【対応案】

医大は、毎年度中期計画等に定めている各年度ごとの目標に対する進捗を評価委員会へ報告。（評価委員会による5段階評価は行わない。）

<報告内容>

実現目標及び取組の進捗状況、進捗している主な項目、進捗が滞っている項目  
（※進捗管理資料イメージ添付）

公立大学法人奈良県立医科大学中期目標・計画の進捗について

全体の進捗状況

- S: 中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- A: 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
- B: 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
- C: 中期目標の達成のためにはやや遅れている
- D: 中期目標の達成のためには重大な改善事項がある

令和2年度

19項目 / 76項目  
 16項目 / 76項目  
 31項目 / 76項目  
 5項目 / 76項目  
 1項目 / 76項目

(参考) 令和元年度

22項目 / 76項目  
 22項目 / 76項目  
 28項目 / 76項目  
 3項目 / 76項目  
 1項目 / 76項目

【分野別判定】

分野	S	A	B	C	D
地域貢献(教育)	2	3	3	3	0
地域貢献(研究)	1	0	0	0	0
地域貢献(診療)	3	4	5	0	0
教育	1	2	14	0	0
研究	3	3	0	0	0
診療	2	1	3	1	1
法人運営	7	3	6	1	0
合計	19	16	31	5	1

## 進捗している主な項目

※特に進捗している項目として以下の項目があげられる。

目標分野	【価値目標(KGI)】(県の願い)	番号	【実現目標(KPI)】	令和2年度目標 (中期計画・年度計画)	実績	医大の取り組み状況
地域貢献 (診療)	県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	13	中南和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下	5.2%	1.94%	新型コロナウイルス感染症の影響により、県との協議ができない中、実績としては高水準を維持しており、中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある。
地域貢献 (教育)	医師の偏在・散在の解消	6	県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加	14人 (累計)	33人 (累計)	新型コロナウイルス感染症の影響により取組に制限がある中、関連病院へ県内配置医師の充足状況やニーズ等の聞き取りを行うなどの取組により、中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある。 各医局で行われている医師派遣の状況に関する調査については、把握・分析した内容について、分析結果を県に報告していただきたい。
地域貢献 (研究)	地域に根ざし地域と歩む研究の推進	12	県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数(累計)の増加	30件 (累計)	49件 (累計)	市町村の「健康増進計画」や「介護保険事業計画」の策定への助言など、市町村が実施する健康増進事業への支援を進めるとともに、健康増進に寄与する調査研究を情報発信するなど、中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある。
教育	「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	26	高度医療・急性期医療・慢性疾患における、患者の理解と自己選択を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実	・「良き医療人育成カリキュラム」の充実 ・随時見直しを実施し、講義内容の改善及び充実を図る。	・5年次の臨床実習(2週間)で「医師・患者関係学」を本格的に実施 ・次年度の6年次の臨床実習(4・8週間)で「医師・患者関係学」の導入を決定	新型コロナウイルス感染症の影響により、取組に制限がある中、呼吸器内科や血液内科等、複数診療科での臨床実習を実施するなど、中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
研究	研究推進体制の適正化と強化	46	民間企業や他学部との共同研究件数(累計)の増加	65件 (累計)	105件 (累計)	奈良先端科学技術大学院大学との共同研究助成を行うなどの取組の結果、年度目標を大幅に上回っており、中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある。
診療	患者満足の一層の向上	56	患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答した割合の維持	90%以上	(外来) 97.3% (入院) 97.4%	新型コロナウイルス感染症防止の一環として、QRコードを読み取ることで、院内外を問わず、会計や調剤の進捗状況が確認できるシステムの運用を開始するなどの取組の結果、年度目標を大幅に上回る実績となっており、中期目標の達成に向けて特筆すべき進行状況にある。
		57	患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答した割合の維持	30%以下	18.3%	
法人運営	働き方改革の推進	74	障害者雇用率の向上	2.78%	3.21%	就労支援機関等との意見交換を毎月実施するなど、中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

## 進捗が滞っている項目

※CまたはDの項目として、以下の項目があげられる。

目標分野	【価値目標(KGI)】(県の願い)	番号	【実現目標(KPI)】	令和2年度目標 (中期計画・年度計画)	実績	医大の取り組み状況
地域貢献 (教育)	医師・看護師・保健師の県内定着	2	医学科卒業生の県内就業率の確保	第3期期間平均 60%	2ヶ年平均 56.9% (単年度:57.1%)	中期計画では早期体験実習の実施をする計画であったが、実施にまで至っていないなど、中期目標の達成のためにはやや遅れているため、引き続き、医学科卒業生の県内定着に向け取り組まれない。
		3	県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討結果に応じた地域枠の人数の調整	地域枠定員数の調整検討	卒後2年目以降の進路情報の入手方法及び分析方法を検討	出身地等の情報収集が困難な状況があり、中期目標の達成のためにはやや遅れている。地域枠の地域定着率等を把握し、地域枠のあり方について検討を進めるため、効果的な分析を進めるよう取り組まれない。
		5	看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加	第3期期間平均 6人	2ヶ年平均 4人 (単年度:2人)	新型コロナウイルス感染症の影響により、学生を対象とした「へき地体験実習」が中止になるなどの影響があったことはやむを得ないが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した代替的な取組を実施するなど検討されたい。
診療	県内基幹病院としての機能の充実	54	認定看護師等の増加	6人増加	4人 (単年度:3人)	認定看護師の6人増加には至っておらず、中期目標の達成のためには遅れているが、令和2年度は3人増加となり、前年度の1人増加と比して改善している。引き続き、第3期中期目標期間中(令和6年度まで)の15人の養成を達成するよう取り組まれない。
	患者満足の一層の向上	58	ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答した割合の向上	59%	51%	新型コロナウイルス感染症の影響により、Web形式での研修を余儀なくされるなど、取組が制限される中、可能な範囲での取組を実施しているが、令和3年度は、Web形式での参加者が大きく増加したことなどを踏まえ、Web形式においても効果的な研修内容を模索されたい。
法人運営	医療人としての人材育成	75	「医療人育成センター(仮称)」の設置及び運営	センター運営	令和3年4月1日付けで「医療人育成機構」の設置を決定	令和元年度中に医療人育成機構の設置を達成する計画であったが、1年遅れの設置となった。今後は、医療人育成機構の効果的な運営を実施されたい。

# 公立大学法人奈良県立医科大学中期目標・中期計画の進捗について

価値目標 (KGI)	実現目標 (KPI)					医大自己判定				
						R1	R2	R3	R4	R5
	1 医師・看護師・保健師の県内定着	1	県内で臨床研修を行う県立医大卒業医の県内基幹病院における専攻医登録率の確保	A	A	A	A			
2		医学科卒業生の県内就業率の確保	B	C	B	B				
3		県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討結果に応じた地域枠の人数の調整	B	C	B	B				
4		看護学科卒業生の県内就業率の確保	B	B	B	B				
5		看護学科卒業生の保健師の県内就業者数の増加	B	D	B	B				
2 医師の偏在・散在の解消	6	県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加	S	S	S	S				
	7	医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加	A	A	A	A				
3 看護師の質の向上	8	特定行為研修(急性期コース)を修了した看護師数の増加	S	A	S	S				
	9	専門看護師数の増加	S	B	D	D				
	10	特定行為研修(在宅コース)を修了した看護師数の増加	S	S	S	S				
	11	訪問看護ステーションとの連携強化	A	B	A	A				
4 地域に根ざし地域と歩む研究の推進	12	県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数(累計)の増加	S	S	S	S				
5 県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	13	中中和地域における重症以上の傷病者搬送事案において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下	S	S	D	D				
	14	24時間365日ER型救急医療体制の確立	B	B	A	A				
	15	救急隊からの受入照会に対する受入率の向上	B	B	C	C				
	16	新生児の県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率の向上	A	A	A	A				
	17	災害医療を支えるDMATチームの育成	S	S	S	S				
	18	教職員に対するBCPの周知徹底や他機関との連携を想定した災害医療訓練の検討及び実施	B	B	A	A				
6 病病連携・病診連携の推進	19	高い紹介率の維持	A	A	A	A				
	20	高い逆紹介率の維持	A	S	A	A				
	21	総合診療科における在宅医療部門を設立	B	B	A	A				
	22	近隣病院との新たな連携の構築	A	B	A	A				
	23	糖尿病診療ネットワーク専門医協議会による糖尿病医療に係る非専門医から専門医への紹介数の増加への支援	—	—	S	S				
	24	糖尿病専門医養成数の増加	B	D	B	B				
7 各領域の担い手となる医療人の育成	25	臨床研究中核病院の承認を得る	B	A	B	B				
8 「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	26	高度医療における、患者の理解と自己選択を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実	S	B	A	A				
		急性期医療における、患者の理解や受容を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実								
		慢性疾患における、患者に寄り添うコミュニケーションや多職種連携を習得するための学習の充実								
	27	医師・看護師・保健師・助産師の現役卒業生の国家試験合格率の向上	A	A	S	S				
	28	「良き医療人」の資質を持った受験生を増加させるための新たな広報活動の展開	A	C	B	B				
	29	「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化 ①CBT合格率の向上	S	S	S	S				
	30	②Post-CC OSCE合格率の維持	S	D	S	S				
	31	③看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上	B	B	B	B				
	32	臨床実習における学生の経験内容を評価・充実	B	B	B	B				
	33	教養教育科目の見直し	B	B	A	A				
9 教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価	34	アクティブ・ラーニングの推進 5つの手法の実施(反転授業、eラーニング、小グループ講義、形成的評価、臨床実習の360度評価)	A	A	A	A				
	35	授業手法改善のためのワークショップ等の参加率の向上	A	B	B	B				
	36	高度な教育・研究力を持った看護系教員養成のための看護学研究科の設置	A	B	B	B				
	37	学習内容や教育手法の充実度について、各科目単位で学生からの評価を実施・向上	A	B	B	B				
	38	医学教育分野別評価	A	B	B	B				
	39	看護学教育分野別認証評価	A	B	B	B				
10 学生への支援の推進	40	成績下位者に対する学習支援の実施	B	B	B	B				
	41	学生の自主研究・生涯学習の態度及び研究マインドの育成の支援	B	D	B	B				

# 公立大学法人奈良県立医科大学中期目標・中期計画の進捗について

価値目標(KGI)	実現目標(KPI)		医大自己判定					
			R1	R2	R3	R4	R5	
			11	学習環境と教育環境の充実	42	県と連携して新キャンパス先行整備の竣工を目指すとともに、継続整備について検討	B	B
		43	修学環境の改善	B	B	B	B	
		44	地域社会から期待される医学・看護学・医療分野のリーダーとなれる人材の養成	B	B	B	B	
12	最善の医療に貢献する最先端の研究の実施	45	PubMed対象の英文学術論文数(累計)の増加	S	S	S	S	
13	横連携・他分野連携の推進	46	民間企業や他学部との共同研究件数(累計)の増加	S	S	S	S	
14	研究推進体制の適正化と強化	47	研究推進体制の適正化と強化の推進 (1)文部科学省科研費採択件数(新規+継続)の増加	A	A	S	S	
		48	(2)研究活動不正防止研修の受講者数(累計)の増加	A	A	S	S	
		49	若手研究者・女性研究者の支援 (1)若手研究採択件数(新規+継続)の増加	S	S	S	S	
		50	(2)女性研究者数(医学科女性教員割合)の増加	A	A	B	B	
15	県内基幹病院としての機能の充実	51	低侵襲手術、高精度放射線治療、精密治療としての薬物療法等を含めた質の高いがん治療実施比率の向上	B	B	A	A	
		52	肝炎医療コーディネーター養成数	S	C	S	S	
		53	臨床指標(クリニカルインディケーター)の改善	S	B	S	S	
		54	認定看護師等の増加	D	D	D	D	
		55	新外来棟等附属病院整備計画の検討	C	A	B	B	
16	患者満足の一層の向上	56	患者満足度調査において「非常に満足」「満足」と回答する割合の維持・向上	S	S	S	S	
		57	患者満足度調査において診察の待ち時間について「不満」「やや不満」と回答する割合の維持・減少	B	S	B	B	
		58	ホスピタリティマインド醸成研修受講者アンケートにおいて「業務に活用できる」「研修内容を理解できた」と回答する割合の向上	B	C	S	S	
17	安全な医療体制の確立	59	患者安全対策提案数の増加	B	B	A	A	
18	ガバナンス体制の確立	60	評価委員会の全体評価での好成績の維持	A	B	-	-	
		61	教育、研究、法人運営等の情報発信の推進	A	B	A	A	
19	医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立	62	繰越欠損金の縮減	C	S	S	S	
		63	未来への飛躍基金寄附実績の増加	S	S	S	S	
		64	院内処方の影響を除いた医薬収益に対する医薬品比率、診療材料費比率の維持	A	S	A	A	
		65	院内処方の影響を除いた医薬収益に対する労務系委託費+給与費合計比率の改善(低下)	B	B	B	B	
		66	後発医薬品の使用割合(数量ベース)の向上	B	B	B	B	
20	働き方改革の推進	67	教職員を対象とする「ワークライフバランスに関するアンケート」の項目における満足度の向上	B	S	B	B	
		68	年次有給休暇取得日数の増加	S	S	S	S	
		69	男性の育児休業取得率の増加	A	S	S	S	
		70	超過勤務の縮減	C	S	B	B	
		71	女性医師数(週5日勤務)の増加	B	B	A	A	
		72	看護師の在職率の維持	S	S	S	S	
		73	復職支援カリキュラムの満足度の向上	S	A	S	S	
		74	障害者雇用率の向上	A	A	A	A	
21	医療人としての人材育成	75	「医療人育成センター(仮称)」の設置及び運営	C	C	B	B	
		76	統計リテラシー醸成	A	B	B	B	